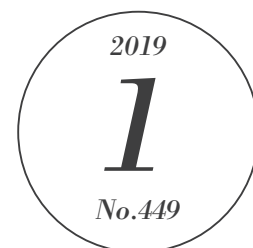




月刊税理士事務所 チャンネル CHANNEL



ミロク会計人会連合会 役員
ミロク情報サービス代表取締役社長 年頭挨拶 2

「第43回全国統一研修会 沖縄大会」開催報告 6

ミロクシステムQ&A

『ACELINK NX-Pro 電子申告(よくあるお問い合わせ)』 16

メッセージ

2019

の役員の先生方に、新年を迎えての抱負や会員のた。

新年のご挨拶



ミロク会計人会連合会 会長

金子 秀夫

2019年のキーワード

平成から 祈りを込めて

[新年を迎えて]

皆々様、新年おめでとうございます。
今年は、平成最後の歳となりました。
この4カ月を意義深く過ごすとともに、
新しい年号のもとで安寧な日々が送
れるよう、祈念してまいります。

特に我々の業界は、軽減税率制度と
いう新たな時代に突入する初年度の
混迷が、年の後半には控えています。
中小事業者にとっても、我が国経済
にとっても大過なきよう、望みます。

[今年の本会に期待すること]

ミロク会計人会の特徴は、つまず、

誇示せず、控えめでありました。
私見で申し訳ありませんが、“大
店の旦那衆”の寄り合いのよう
な、おおらかな結束があります。
しかし、社会は国際化し、淘汰
の時代となりました。会員が連

帯し、組織率を高め、サバイバビリテ
ィをかけて組織拡大に努めなければな
りません。そのため、新年度から単位
会に名簿を設け活用するよう進めてお
ります。今年は、ひと回り大きな会計
人会を目指してまいりましょう。

[いつも通りの心がけ]

私たちは、2019年の初春を、穏や
かに迎えることができました。しか
し、経営者たる者は常に「治にいて
乱を忘れず」です。愚作の川柳で恐
縮ですが一句。

小春日の 過ぎたる先を 想いやり

[今年の抱負]

新人会長として1年目、会員一人ひとりの
声を大切にするとともに役員の皆様の協
力を得て、お互いに認め合う会計人会に
してゆきたい。また、個人としては日々
の変化に即応し、愚直に正直に立ち向か
って職務を全うしたいと思います。

[会員に向けてのメッセージ]

昨今の社会環境の流れは早いです。会と
しても適時、的確に分かりやすい情報伝達
に努めてまいります。当会に対し、今ま
で以上の提言をお願いするとともに、会
員の皆様にとって健やかで良き年であり
ますよう祈念しております。



東北会会長

福島 朗

2019年のキーワード

人手不足

[今年の抱負]

今日的課題であります「人手不足」はますま
す深刻になってくるものと思います。我々業界
では、IT化への取り組みが比較的進んでいるほ
うとはいえ、事業効率化への要求は一層高まり、
その際の有力なツールとしてMJSの会計ソフト
に期待するところが大きいです。

[会員に向けてのメッセージ]

国家財政に目を転じれば、2019年10月の消
費税引き上げは財政赤字の全面的解決となるも
のではなく、軽減税率ならびに教育無償化な
どの大胆な施策見直しも必要となるでしょう。

そのために、我々会員として税理士法の理
念を再認識し、納税義務の適正な実現を図る
1年としたいと思います。



北陸会会長

常山 明夫

2019年のキーワード

進化と深化

—進化するときは、人が深化している—

[今年の抱負]

2019年、亥年にちなみ“猪突猛進”します。と、言いたいところ
ですが亥年とは“春の芽吹きまで、じっと固い種の中でエネルギーを内に
込める”という意味を持つそうです。今年は経営基盤を固め内部の充実
に心がけようと思います。

[会員に向けてのメッセージ]

近い将来、AIに取って代わられる職業に挙げられる税理士…。しかし、
顧客との信頼関係・チームワークはAIやロボットにできるでしょうか？
「かかって来いAI」という意識で会員の皆様とともにミロク会計人会
を盛り上げていきましょう。

ミロク会計人会 役員メッ

2019年、新しい年を迎えました。ミロク会計人会
皆様へのメッセージなどをご寄稿いただきました。

今秋の統一研修会に向けて



北海道会会長

中原 章博

2019年のキーワード

随処作主

[新年を迎えて]

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の全国統一研修会は、北海道会が担当し函館市で開催します。大会テーマ「新・維新」のもと、異国情緒溢れる函館に多くの皆様をお迎えいたします。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

新たな年が皆様にとりまして良き一年でありますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

[統一研修会に向けた意気込み]

第44回全国統一研修会の開催地は、ミシュラン観光地が20を超える魅力度ランキング1位のまち函館です。

「維新151年」「北海道151年」「新

元号」、新時代を迎え土方歳三や榎本武揚ゆかりの地で「新・維新」を大会テーマとして開催します。テーマに相応しい研修会にし、ノスタルジック函館を存分に堪能いただきたいと、北海道会は皆様をお迎え致します。

[個人的な抱負、目標]

次世代へのバトンタッチの年にしたい！

自事務所において、各団体においても、そろそろ役職を退任しようと思います。次世代を応援する良き先輩になりたい！



東京会会長

馬場 英晶

2019年のキーワード

顧客の立場を
常に理解する

[今年の抱負]

複雑化していく顧客の経営内容をMJSのシステムを最大限活用して支え、経営計画の指導を行っていくことは今後ますます重要な業務として認識する必要があります。

[会員に向けてのメッセージ]

ミロク会計人会の皆様におかれましては、多忙な毎日を過ごされていることと思います。

私たちの業務は、多種多様な業種に関わった経理・税務・経営指導に接しています。

数字となって表れてくる結果を見て、どのようなアドバイスができるかが重要なことではないでしょうか。



関東信越会会長

畔上 洋

2019年のキーワード

新元号のもと、
助け合う社会づくり



中部会会長

石川 光男

2019年のキーワード

人間力は
全てに優先！

[今年の抱負]

私の常々の目標は「顧客企業のより良い仕組みづくりへのサポーター」であり、今まさにAI・IoTの時代と言われています。パソコンでどんなことでも検索できる時代ではありますが、人間力は全てに優先！を掲げ、上記目標のもとで、高難度業務へのさらなる挑戦です。

[会員に向けてのメッセージ]

今、会員のメリットは？ということで、昨年までは「研修と交流こそ会計人として必須！」と中部会を挙げての質量ともに、税務関連業務も含めた研修と交流の充実を目指しました。入会率3分の2以上の会員増強を目標としましたが、道半ばです。本年6月で退任予定です。退任後は側面からさらに当事者の一員として邁進してまいります。



四国会会長

木村 幸博

2019年のキーワード

ピンチもチャンスも、
自分次第！

[今年の抱負]

平成元年の消費税導入時、その前年12月末に成立した消費税法が、翌年の4月に施行されるという慌ただしさでした。それを支えたのは、日本の税理士制度でした。本年は増税の上、複数税率の実施となり混乱が予想されますが、日本の税理士制度、複数税率のスムーズな実施に貢献したいと考えます。

[会員に向けてのメッセージ]

全国統一研修会 沖縄大会における「景気は確実に回復しつつある」との麻生 太郎財務大臣の祝辞を信じつつ、日本の景気がミロク会計士の繁栄をもたらし、かつ、ミロク会計士の繁栄が日本の景気を支えるとの自負を持ち、ミロク会計士会としてあるべき姿を求め、今年も頑張っていきたいと思います。

[今年の抱負]

「事業承継ガイドライン」が公表されて早10年、この間に何度かの事業承継税制の改正が行われましたが、ここに来てやっと社会が本格的に動き出した感があります。我々も税制の側面からだけでなく、中小企業のパートナーとして真剣に取り組んでいきたいと思えます。

[会員に向けてのメッセージ]

私たちは今まで税務・会計の仕事をしてきましたし、これからもそれは続くでしょう。しかしもう一つの側面として、関与先企業の持続的な発展のための一翼を担っていることも確かです。事業承継について随分先行された会員もおられますが、これからが本番だと思います。一緒に精を出していきましょう。



沖縄会会長

波平 正

2019年のキーワード

変化

[今年の抱負]

沖縄会の会長としては、会の活性化を目指します。具体的には役員会をはじめ、各委員会開催回数の増加を図ります。そのために、財政（特に収入増案）についても検討していきます。個人としては、旅行、山歩き、ゴルフのスコアアップを目指します。

[会員に向けてのメッセージ]

昨年は、全国統一研修会開催で沖縄会全員が結集しました。その勢いを持続していくことが開催の最大の効果だと思います。会の活性化のため、さまざまな意見をお寄せください。



近畿会会長

植田 卓

2019年のキーワード

地道に行けば
必ず成る

[今年の抱負]

「ミロク会計人懇話会を通じて意思疎通を」

MJSのシステムは優れているのに、個々のユーザーに十分に伝わっていないのが現状です。そこで近畿会では、システムの伝導布教と、MJS・会員相互の意思疎通を図るため「ミロク会計人懇話会」を開催しており、今年度も積極的に継続していきます。

[会員に向けてのメッセージ]

「税法条文はTVSのホームページから」

TVSのホームページの左下にある「税務会計データベース」をご存知でしょうか。現行だけでなく以前のもも見られますし、条文中のかっこ書きに色付けもできるなど非常に優れた条文集です。税務解釈の最後の決め手は条文です。ぜひ一度利用してみてください。



九州会会長

大久保 昌逸

2019年のキーワード

事業承継



中国会会長

吉井 利幸

2019年のキーワード

気合

[今年の抱負]

今年の抱負としまして中国会は、会員の皆様方とさらなる連携を図り、税法よりもビジネスとしての切り口で情報発信していきたいと思えます。

先行すべきモノは先行し、そうでないモノはコスト重視で後から行きます。

[会員に向けてのメッセージ]

我々はあるような時代にあっても、中小零細企業およびその経営者の良きサポート役として責務を果たしていかなければなりません。

先生方の個性を生かし、しっかりと差別化して今後の変化する時代に立ち向かいましょう。

AI・FinTechなんて怖くない。



連合会監事

井上 泰一

2019年のキーワード

急激なデジタル
社会への移行

[今年の抱負]

私の事務所は、先代（父）が1948年に立ち上げ、昨年、創業70周年を迎えました。今年は、元号が変わる節目の年になります。「百年事務所」を目指し、会計事務所を取り巻く環境を見据え、今後の事務所のあり方について、長期的に考える年にしたいと思います。

[会員に向けてのメッセージ]

2013年度まで4年間、副会長として、連合会会務に関わらせていただきました。昨年7月の定期総会において連合会監事に選任されました。連合会の活動が会員にとってより良いものになるよう、監事として精一杯、務めていきたいと思っています。



連合会監事

林 伸三郎

2019年のキーワード

NO SIDE

[今年の抱負]

連合会監事としての抱負は、連合会会計および会務執行の明瞭性と透明性を求め、「会員のための会務」を意識して監事役を務めてまいります。

私の抱負（Tell oneself）としては、生涯現役、生涯研鑽を貫き、青臭さを失わず、何にでも興味を持ち続けることです。

[会員に向けてのメッセージ]

ミロク会計人会の会員であることに誇りを持つ、あなたが選んだベンダーと和になり提言し共存しているから。

そして、事業に進んで参加しよう、あなたの大切な仕事に直結する貴重な情報知識が多く得られるから。

それでも、誇りを持ってないなら立ち止まって考えよう。



ミロク情報サービス
代表取締役社長
最高経営責任者

是枝 周樹

2019年のキーワード

会計事務所の発展を 支え続けます

[新年を迎えて]

新年明けましておめでとうございます。先生方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は第43回全国統一研修会が沖縄にて開催されました。日本全国から参加された多くの先生方の熱気に直に触れ、会計事務所が時代の変化に対応しながら発展を続けていることを実感致しました。

急速に進む少子高齢化、それに伴う労働力不足。また、シェアリングエコノミーの拡大、クラウドや

AIの導入など、ビジネス環境はかつてないほどの速さで変化しています。その中で中小企業は、生き残りをかけ変革することを求められています。その実現を支援するため、会計事務所の果たす役割はますます大きくなっていくことでしょう。

[今年のMJSの目指すもの]

当社は中小企業の経営課題を会計事務所とともに解決すべく挑戦を続けています。昨年は小規模事業者を対象としたクラウドサービス「かんたんクラウド会計／給与」「お金の管理」の提供を開始しました。これらは、顧問先企業・会計事務所双方の業務効率化を支援するものです。

中小企業の事業承継では、子会社MJS M&Aパートナーズ（mmap）を通じた支援サービスを展開しています。地方金融機関とのネットワーク構築も進めており、中小企業の事業支援を通じた地域経済の活性化に取り組んでいます。

先生方が高度なサービスを顧問先企業に提供できるよう、積極的に取り組んでまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

平成30年11月8日(木)

「第43回全国統一研修会 沖縄大会」開催報告

「美ら海 美ら島！ ようこそ南国 沖縄へ」をテーマに開催され、808名が沖縄に集結!!

11月8日(木)、沖縄県那覇市の「ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー」にて、ミロク会計人会連合会主催の一大イベントである「全国統一研修会 沖縄大会」(開催担当会: 沖縄ミロク会計人会)が、808名の参加を得て盛大に開催されました。



式典全景

式典は、午後1時45分から新里和也大会実行委員とアシスタントの崎山一葉氏の司会のもと、友利博明大会実行委員長の挨拶により開会。

金子秀夫ミロク会計人会連合会会長による大会開催のご挨拶の後、麻生太郎財務大臣からの祝辞を木村幸博連合会副会長が代読披露されました。その後、来賓の木村聡中小企業庁事業環境部長および外間喜明沖縄税理士会会長からご祝辞をいただきました。

単位会表彰では、昨年の「第42回全国統一研修会 新潟大会」を担当された関東信越ミロク会計人会を代表し、畔上洋会長が表彰を受けられました。功労者表彰では、このたび任期を終え

られた関東信越ミロク会計会会の増田正廣前会長が表彰されました。

そして、協賛会社であるミロク情報サービスの是枝周樹代表取締役社長の挨拶の後、祝電が披露され、下地寛一大会実行副委員長からの閉会の言葉で式典は終了となりました。

引き続き午後2時30分から行われた基調講演は、糸数哲夫大会実行委員の閉会の言葉でスタート。作家で元外務省主任分析官の佐藤優氏に「激変する国際環境と日本の進路」と題してご講演いただき、松川吉雄大会実行副委員長の謝辞と閉会の言葉で幕を閉じました。

その後3カ所の会場に分かれ、分科会が開催されました。

第1分科会は、連合会情報ネットワーク委員会が企画・運営を担当しました。テーマは「業務改善シリーズ第5弾『10年後求められる税理士事務所となるために』」で、パネルディスカッション形式で今後の税理士事務所に求められること、果たすべき役割が議論されました。

第2分科会は、ウィルス学者(獣医学博士)で(有)生物資源研究所代表取締役・所長の根路銘国昭氏に、「人生いろいろから沖縄の未来図」と題して講演いただきました。司会は嘉陽宗一郎大会実行委員が務め、森東道夫大会実行委員が閉会の言葉を、井上むつき大会実行副委員長が謝辞と閉会の言葉を述べられました。

第3分科会は、琉球大学名誉教授(文学博士・琉球史)の高良倉吉氏を講師に招き、「琉球王国の歴史を考える」をテーマにお話いただきました。司会を野原信男大会実行委員が務め、閉会の言葉を高良正一大会実行委員が述べ、大濱盛英大会実行副委員長による謝辞と閉会の言葉で終了しました。

ご祝辞

沖繩税理士会会長
外間 喜明 様



本日は第43回全国統一研修会がこのように盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。沖縄での開催は、今回で3回目と伺っております。

皆さん、ようこそ青い海、青い空、まっかい太陽の沖縄にお越しくださいました。今年の夏は本土では異常気象となり、最高気温41・1度を記録、また9月以降には立て続けに台風が上陸して各地に甚大な被害がもたらされ、北海道ではその台風が過ぎ去つてすぐに最大震度7の地震まで発生しました。こうした災害の被害を受けられた方々に、この場をお借りして心からお見舞い申し上げます。

さて、昨今の中小企業が抱える後継者問題は、日本経済の成長や発展における最重要課題として位置づけられています。事業承継対策や経営力強化に向けて、国や地方公共団体、金融機関などが互いに連携を図りながら、中小企業支援に関するさまざまな施策を打ち出していかねばなりません。そのためには言うまでもなく、中小企業の身近な相談相手として日々信頼に応え、さまざまな場面で研鑽を積まれてきた会計士会の会員の皆様のご協力が欠かせません。今後とも、会員の社会的地位の向上と顧問先企業の発展に貢献していただけるようお願い申し上げます。

そして、このたびの全国統一研修会沖縄大会を機に、初めて沖縄を訪れた先生も、何度かお見えになられている先生も、ここ沖縄の景色や風土の素晴らしさをぜひとも堪能していただきたいと思ひます。

結びに、貴会のみならず、ご発展と本日も参加の皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げ、祝辞といたします。

ご挨拶

ミロク会計士会連合会会長
金子 秀夫



本日の第43回全国統一研修会沖縄大会にお集まりいただきました多くの皆様に、心から感謝を申し上げます。そして、沖縄会の皆様が全員一丸となつて今回の大会の開催に尽力されたことにも、深く感謝申し上げます。

さて、沖縄と言えば琉球王朝の時代から独自の文化や祭事が受け継がれ、今なお根づいているとともに、戦争の爪痕が深く刻まれた地でもあります。昨今、沖縄には国内外から多数の観光客が訪れていますが、ぜひそうした歴史の一端にも触れるべきではないかと思ひます。

例えば遡ること約20年前、私は沖縄を訪れたときにかつての海軍壕跡を見学する機会がありました。これは第二次世界大戦末期の昭和20年、沖縄地上戦でアメリカ軍の猛攻を受けた日本軍が地下につくった司令部の跡地です。いよいよ戦局が危うくなった5月半ば、沖縄守備隊長の牛島満中将は海軍次官宛てに二通の決別電文を送つたのですが、その内容は「沖縄県民斯克戦ヘリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」、つまり「沖縄の人たちは日本軍に非常に献身的に協力し、よく戦つたから、戦争が終わつたら彼らを支援してほしい」という、当時の状況を考えると非常に異質なものであったそうです。牛島中将はその後、6月下旬には自決しています。彼のこの電文は現代にまで語り継がれています。今回、全国統一研修会を機にこの地に集まった私たちも、これを機にこうした日本の近現代史の知識を身につけ、未来に語り継いでいくべきではないでしょうか。そんな想いを申し上げます。第43回全国統一研修会に寄せる言葉とさせていただきます。

協賛会社挨拶

ミロク情報サービス代表取締役社長
是枝 周樹



本日は、ミロク会計士会連合会主催の第43回全国統一研修会沖縄大会に多くの皆様方にお集まりいただきしたこと、心より御礼申し上げます。また、大会準備にあたられた沖縄会の諸先生方にも厚く御礼申し上げます。昨今、IT業界では、クラウド・コンピューティングの進展とスマートフォンなどのモバイル端末の普及により、流通や決済の仕組みが大きく変化しています。こうした中、当社は中小企業のIT化による業務改善や資金繰り、事業承継などさまざまな経営課題を解決できるよう、地域金融機関との関係強化を積極的に進めています。

ここ沖縄でも、ITの活用によって産業振興を図ろうという動きが起つています。この夏、官民共同で設立された「一般財団法人 沖縄ITイノベーション戦略センター」はその拠点の一つです。当社と沖縄ミロク会計士会とは同センターの会員に加入し、今後さまざまな実証実験に参加しながら、沖縄の中小企業の経営改善につながる新たなサービス提供を推進してまいります。

また、顧問先企業から事業承継に関する相談が一層増加する現状に伴い、子会社である「MJS M & A パートナーズ」とともに、中小企業における円滑な事業承継の支援にも取り組んでいます。会計事務所の先生方の協力のもと、一件でも多くの中小企業の事業承継に貢献していく所存です。

当社はこれからもミロク会計士会と協力し合い、会計事務所業界の発展、そして顧問先の中小企業を元気にできるよう最大限の支援をしてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



田里 友治日本公認会計士協会沖縄会会長の乾杯のご発声で懇親パーティーは開始



歓迎の意を述べる城間 幹子那覇市長



来賓の挨拶を述べる謝花 喜一郎沖縄県副知事



開会挨拶を述べる沖縄会の波平 正会長



琉球王朝時代に発祥したという空手



五穀豊穡への祈りと感謝を表現した琉球舞踊



知花 直治大会実行委員による閉会の挨拶



挨拶を述べるMJSの是枝 伸彦会長



観客を圧倒したエイサーの舞い



沖縄会の先生方とMJSの面々によるお見送り



中原 章博会長をはじめとする北海道会の皆様が次期大会への参加を呼びかけ！

懇親パーティーは午後6時30分に、沖縄県立南風原高校郷土芸能部と「琉球芸能 若竹の会」による琉球舞踊「かぎやで風」「四つ竹」で幕を開け、長年にわたり脈々と受け継がれてきた五穀豊穡への祈りと感謝の唄と踊りに会場は沸き立ちました。新里 和也大会実行委員の司会のもと、まずは沖縄会の波平正会長が開会の挨拶を述べられました。次に謝花 喜一郎沖縄県副知事と城間 幹子那覇市長が来賓代表のご挨拶をされ、続いて田里 友治日本公認会計士協会沖縄会会長が乾杯のご発声をされました。

食事が始まると間もなく、浦添高校空手道部による琉球空手演武「アーナン」と「アーナンの分解」が披露されました。琉球王朝時代に発祥し、2020年の東京オリンピック新種目として話題を集める空手の見事な演武は出席者を魅了しました。

しばしの懇親と食事の時間を経て、最後に沖縄県内外でのイベント出演などの活動を展開するエイサー団「真南風」によりエイサーが披露されました。エ



イサーとは、若者たちがサンシン（三線）に合わせて太鼓を叩き、にぎやかに村中を練り歩き神々に祈る行事で、沖縄に古くから伝わる夏の風物詩です。その熱気や迫力は会場を圧倒しました。

その後、ミロク情報サービスの是枝 伸彦代表取締役会長より挨拶がありました。続く次期大会へのお誘いでは、北海道会の中原 章博会長をはじめとする会員の皆様が壇上に立ち、北海道函館市で開催される第44回の大会への参加を呼びかけました。

そして、最後に知花 直治大会実行委員が沖縄会の皆様とともに閉会の挨拶をし、懇親パーティーは終了となりました。

基調講演レポート

激変する国際環境と
日本の進路

外務省主任分析官として数多くの国際問題と対峙してきた経歴を持つ、作家の佐藤 優氏。基調講演では、昨今の複雑に入り組んだ国際情勢を独自の視点と切り口で解説していただきました。

講演者



佐藤 優氏

さとう まさる

作家・元外務省主任分析官

1985年に外務省入省。英国の陸軍語学学校でロシア語を学び、その後、モスクワの日本国大使館、東京の外務省国際情報局に勤務。2002年5月に鈴木宗男事件に連座し、東京地検特捜部に逮捕、起訴され、無罪主張をし、争うも09年6月に執行猶予付き有罪確定。13年6月に執行猶予期間が満了。刑の言い渡しに効力を失った。この逮捕劇を「国策捜査」として描いた『国家の罠—外務省のラスプーチンと呼ばれて』(新潮社、05年)は大きな波紋を呼び、毎日出版文化賞特別賞を受賞。『自壊する帝国』(新潮社、06年)が新潮ドキュメント賞、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞した。

世界秩序の本格的変化

ここ最近の国際情勢の中心にあるのは、米国のトランプ大統領です。そして、2018年11月に行われた米中間選挙では、上院は共和党、下院は民主党が勝ちました。これは実に驚くべきことです。なぜなら、通常、大統領選挙後の中間選挙は上院も下院も与党が負けるものだからです。しかも、トランプはひんしゆくを買うようなことばかりしている人でもあります。それでも上院で勝ったわけですから、トランプ

路線は米国のかなりの層に支持されていると言えるでしょう。

トランプ大統領を語る上で忘れてはならないことは、「宗教観」についてです。トランプ大統領のご息女と義理のご子息がユダヤ教というのには有名な話ですが、実はトランプ大統領はキリスト教のプロテスタント・長老派(カルヴァン派)なのです。この宗派の価値観の中には生まれる前に神様に救われる人と、そうでない人が決められているというものがあります。そして、そこにはどんな逆境にあっても「これが

神から与えられた試練だ」「自分が成功、勝利することは決まっている」という強い信念があります。そのため、宗徒の多くはよく言えば逆境に強い、悪く言えば反省しないという面があるわけです。

トランプ大統領は一見、めちゃくちゃなように見えて、心の中では「自分がやらないといけない」という使命感を持っていくように思えます。例えば、イスラエルの大使館をテルアビブからエルサレムに移す、あるいは北朝鮮と対話し戦争を回避するということはその使命感によるものではないでしょうか。

そういった認識を持った上で北朝鮮問題について考えてみましょう。国際問題を考える上での基本的なルールは、まず「脅威とは何か」を見極めることです。脅威は「意思」と「能力」で構成されます。例えば、米国は日本を完全に破滅させるだけの核兵器を持っていますが、私たちは米国を脅威と考えていません。なぜかというと、米国は核兵器を持つという能力を有していますが、日本を攻撃する意思がないからです。ロシアも日本を完全に破滅させるだけの核を持っていますが、同様に私たちはロシアを脅威と思っていません。それはやはりロシアが核攻撃をする意思を持っていないからです。また、

中国についても尖閣諸島付近に公船を入れたり、歴史認識問題でさまざまなことを言っていますが、それでも日本に核攻撃を仕掛ける意思はないと思っています。なので、脅威と認識していません。

では北朝鮮はというと、かの国は能力と意思を持っています。つまり、北朝鮮は脅威なのです。だからトランプ大統領は今、北朝鮮と良好な関係を築くことで、その意思を消失させようと考えているわけです。彼はおそらく平壤に行くか、第3国で会談するなどして、まずは自国を脅威から守るため、大陸間弾道ミサイル(ICBM)を撤廃させるでしょう。そして、北朝鮮との関係を改善しながら、核兵器や短距離ミサイル、中距離ミサイルの段階的な削減を提案していくと思われます。

北方領土問題の背景

次に北方領土問題について考えてみたいと思います。第二次世界大戦中、ソビエト連邦との戦争では、日本が侵略された側でした。当時有効だった日ソ中立条約を侵犯して、ソ連が侵攻してきたわけです。ソ連はさらに60万人以上の日本の将兵と民間人をシベリアに強制連行して、極寒のシベリア、もしくは灼熱の中央アジアの砂漠で強制労働させ、約6万人が亡くなりました。

続いて、その後の日ソ関係を見てみましょう。サンフランシスコ平和条約2条C項では「日本政府は南樺太と千島列島を放棄する」となっています。この千島には国後島と択捉島も含まれます。この条約にソ連は署名しませんでした。国際法の大原則で、署名していない国は当事者にはなりません。だから日本が千島列島を放棄したのは、サンフランシスコ平和条約に署名した連合国に対してであって、ソ連に対して放棄したわけではないのです。

1956年には日ソ共同宣言が行われました。普通、戦争が終わると平和条約が締結されるわけですが、それには二つのことをしなければいけません。一つは賠償と外交関係の再開、そしてもう一つは領土・国境問題がある場合にはそれを確定させることです。しかし、ソ連とは北方四島をめぐる議論で紛糾し、領土を確定することができませんでした。そこで外交関係の回復を先にして、賠償は双方放棄することにしたわけです。どうしてかという点、当時ソ連には戦犯という形で日本人が残っていたからです。その人たちを一日も早く日本に戻すために、先に外交関係を回復させる必要があったのです。その後、60年に日本は日米新安保条約を締結しましたが、その時、ソ連は

「グルムイコ覚書」を出しました。新安保条約ができたことで、ソ連は米軍の活動が日本で以前より活発になると危惧し、歯舞、色丹島を引き渡したら、そこに米軍の基地が置かれるかもしれないと考え、歯舞、色丹島を引き渡すのなら平和条約締結だけでなく、日本から全外国軍隊を撤退させろとしたわけです。

ソ連のこのような対応を日本政府は内心では歓迎しました。なぜなら、ソ連が歯舞群島と色丹島を日本に引き渡すと日本国内で親ソ世論が強まって、革命政党の動きが活発になり、日本が社会主義国になってしまうことを日本と米国が危惧していたからです。そこで、絶対にソ連が応じられないような即時一括返還という「こぶし」を振り上げて、要求を飲まないことにしたのです。それが日本の国益にかなうと、当時の外務省も政府も考えたわけです。私もそれは間違っていないと思います。

2島返還の現実性

18年10月、ロシア南部のソチで開かれた会議で、プーチン大統領が北方領土問題について「我々は領土問題について既に70年、日本と協議しているが、どうしても合意することができない。全てが行き止まりの状況だ。だから平和条約に署名し、信頼のレベルを

上げて作業し、2国間関係の問題を作らないようにして先に進め、領土問題について議論しよう」と述べました。

それに対して、日本は「現時点でそのようなアプローチは受け入れられない。我々はまず、領土に関する基本問題を解決し、その後、平和条約について話を」としています。そして、プーチンはそれも可能だと答えました。これは非常に重要なことです。

日ソ共同宣言の9項には「ソビエト社会主義共和国連邦は日本国の要望に応え、かつ日本国の利益を考慮して、歯舞および色丹島を日本に引き渡すことに同意する。ただし、これらの諸島は、

日本国とソビエト社会主義共和国連邦との間の平和条約が締結されたときに現実的に引き渡されるものとする」とあります。平和条約を締結することが決まれば、あとは歯舞、色丹島の引き渡し交渉になります。また、日本は国後島や択捉島の土地を借りて、特別の規則で運営をするといったやり方ができるようになります。では、なぜロシアはこんなことをする必要があるのか、そこには三つのポイントがあります。

一つはクリミア問題です。ロシアはクリミアを占領したことで欧米から制裁を科されています。その点、日本と平和条約を締結すると、お互いの国

境・領土を認めることになるので、日本がロシアのクリミア占領を認めるという効果が出てくるのです。

二つ目は朝鮮半島情勢です。現時点で日本とロシアは完全に朝鮮半島問題から外されていますが、日本とロシアが連携すれば、イニシアチブを取れるようになるかもしれません。例えば東京で金正恩、文在寅、トランプ、プーチンと6者協議を行ったり、そこで「北方アジア集団安全保障機構」のようなものを発足するといったプランを描くことができます。

最後の三つ目は地球温暖化です。地球温暖化によって北極周辺の氷が解け始め、1年を通じて船が北極海を通れるようになります。欧州とアジアの航路は北極海経由を活用すればかなり短縮することができますが、その際にロシアの港に入るためには宗谷海峡か津軽海峡を通らなければなりません。そのためにもロシアは日本との関係を改善しておかなければならないのです。このように北方アジアだけでもわずかな期間で国際情勢は大きく動いていきます。その変化は少なからず皆さんのビジネスにも影響を及ぼすはずなので、これからの国際情勢をウォッチし続けていくことをお勧めしたいと思います。



進行を務めた四国会
の榊 忠輝委員(右)と
MJSの長坂 玲衣



(左より)草野 恒史委員(九州会)／大友 聡委員(東北会)／岡崎 克郎委員(北陸会)／上田 隼(クラウドインボイス社長)／清水 俊介委員長(桂会、中国会)／岩田 悟(MJS執行役員、bizsky事業部長)／久保 且桂副委員長(北海道会)／神谷 研委員(中部会)／蘆田 裕三委員(近畿会)

第1分科会レポート

業務改善
シリーズ
第5弾

10年後求められる 税理士事務所となるために

情報ネットワーク委員会が企画・運営を担当する第1分科会では、今後の税理士事務所に求められる役割、そして事務所のあり方などがパネルディスカッション形式で議論されました。充実した内容の本講演、その概要をお伝えします。

人材確保について

人材の売り手市場と言われる昨今、優秀な人材を確保するためには魅力のある職場環境を提供することが肝要で、パネラーの先生方が自所において取り組まれていることをご紹介しました。

例えば生産性を高めて働きやすい職場とするため、属人的になっ

告関連業務の進捗管理表を作成し繁忙期を計画的に乗り切ったり、DVDやオンラインセミナーを含めて研修を充実させるなどの工夫が披露されました。また、魅力的な職場づくりのために産休育休、介護休暇制度を公的機関の支援を受けて策定、随時改定したり、マイクロソフト社、IBM社を視察してスタイリッシュで機能的なオフィスづくりの参考とするなどの取り組みが紹介されました。

今できる

業務効率化について

続いて、今できる業務効率化が話題となり、このテーマよりMJSの子会社、クラウドインボイス社の上田 隼社長、MJSのbizsky事業部長の岩田 悟執行役員が加わりました。

税理士事務所における時間を要する業務の一つに、記帳代行が挙げられます。そこで、上田社長よりクラウドインボイス社が提供する記帳代行サービス「丸投げ記帳代行」が紹介されました。本サービスは顧問先から預かった証憑を郵送もしくはスキャンしてデータとして送るこ

とで、仕訳表の形で受け取れるサービスです。これを活用することで試算表を作成するのに要する時間が大幅に短縮でき、その分の時間をより付加価値の高い業務に充てることができそうです。また、MJSが構築するクラウドの技術基盤「bizskyプラットフォーム」では、小規模事業者向けの自計化サービス「かんたんクラウド会計／給与」、個人事業主向けの取引情報管理サービス「お金の管理」などを提供しています。これらのクラウドサービスを活用することで、事務所業務をより効率的に行える

と紹介されました。

サービスの 多様化について

次に、税理士事務所におけるサービスの多様化へと議論は移りました。会計・税務業務以外にも顧問先様からさまざまな相談を受ける機会が増えてきているかと思いますが、それに応えることが10年後も求められる税理士事務所へとつながっていきます。

例えば経営革新等支援機関の

認定を受けた先生方は、顧問先の融資先金融機関とのリスクセジュール調整や、資金調達、経営計画立案、補助金・優遇税制を受ける方策の提案などのコンサルティング業務の機会が増えたそうです。他にも災害が増えたことで、IT・BCP^{※1}・環境構築や、生命保険・損害保険会社と連携したリスクマネジメント強化のサポートといったニーズも高まっているといわれています。

A I・FinTechの注目

最後に、今後業界に影響を及ぼす可能性のあるAI・FinTechについて、その展望と今後どのようににそれらの技術と向き合っていくべきかディスカッションが行われました。

AIは脅威になるのかという議論では、記帳代行などのルーティンワークを効率化する上では非常に有効ですが、顧問先とコミュニケーションを図ることや、税務判断などはAIに代替することは難しいとの意見が多く出て、今後の動向にはまだまだ注視が必要との結論となりました。

またFinTechのパートでは、ス

マートフォンを使った送金や決済などの代表的なサービス、そして国が金融機関に求めるAPI公開^{※2}の詳細などが紹介されました。また、インターネットバンキングやクレジットカードなどの取引明細連携やレシート取込機能など、MJSが提供するFinTech関連サービスも紹介されました。

最後に清水 俊介委員長の「手

書きの時代からITが発展し、今はAIやFinTechなどが注目されています。では10年後はどうなっているのでしょうか。同じ会計人会の仲間として、時代の流れに対応しながらこれからも共に頑張っていきたいと思います」とのお言葉で本分科会は幕を下ろしました。

※1 ITを活用した情報の保全、復旧、継続利用に絞って計画すること

※2 銀行と外部の事業者との間の安全なデータ連携を可能にする取り組み

第2分科会レポート

人生いろいろから 沖縄の未来図

第2分科会ではウイルス学者の根路銘 国昭氏に「人生いろいろから 沖縄の未来図」というテーマで語っていただきました。

講演者

1939年沖縄県本部町生まれ。62年琉球大学農学部ならびに65年北海道大学獣医学部を卒業。国立予防衛生研究所(現・国立感染症研究所)に入所。同ウイルス第一部呼吸器系ウイルス研究室長、WHOインフルエンザ・呼吸器ウイルス協力センター長、ハーバード大学世界エイズ治療評価24人委員会委員、厚生省中央薬事審議会臨時委員などを歴任。2004年に(有)生物資源研究所を設立し、代表取締役役に就任。受賞歴に、国際ウイルス学会功労賞、中国河北省人民政府外国人功労大賞、琉球新報賞(学術功労)。研究成果等(1)研究論文350編以上(英文約100編、和文約250編)(2)著書14編。



根路銘 国昭 氏

ねろめくにあき
ウイルス学者(獣医学博士)
(有)生物資源研究所
代表取締役/所長

「敗戦国」を引きずる日本

皆さんは、インフルエンザなどのウイルスに使うワクチンの組成や使い方などがどのように決められるかご存じでしょうか。実は毎年、世界保健機関(WHO)の本部のあるスイス・ジュネーブで開かれる会議で決定されるのです。しかし、かつてこの会議に日本は呼ばれていませんでした。

私は以前、厚生労働省の国立予防衛生研究所に在職していた

のですが、その際WHOに「日本の研究は米国や英国と同じくらい進んでいるのに、なぜ日本は呼ばれないのか」と直談判の手紙を書いたことがあります。日本は米国に毎年膨大な量の研究データを提供しているのに、この扱いは不当だと考えたからです。

その手紙のコピーは世界中に回り、しばらくしてWHOから返事が来ました。そこに書かれてあったのは「日本を呼ばないのはルールで決まっているから

だ」という意味合いの文面のみでした。私は納得できなかった。そこで「かつて国際連盟が第一次大戦後にできたが、それが機能しなくなったことで第二次世界大戦が起こった。その反省を基に、現在の国際連合ができたのだから、世界各国は平等に扱われ、お互いに言いたいことを言わなければならない。日本だけが不当な扱いを受けるのはおかしい」と、再びWHOに抗議しました。しかし、WHOはやはり「敗戦国にはWHOセンターを置くことはできない。ルールは変更できない」の一点張りだったため、私は「それなら日本は今後データを一切提供しない」と議論を打ち切りました。

するとその1カ月後、米政府から飛行機のチケットが送られてきて、私は米国ジョージア州のアトランタに呼び出されました。そして「日本のデータがなければワクチンを製造できないので出してほしい」と説得されたのです。私は「WHOセンターを日本に置く」と明言し、かつ米国がそれを支援するならばデータを出しましょう」と応じま

した。

こうして1カ月後、WHOから銅板に刻まれた辞令が送られて来ました。そこには「日本にWHOセンターを開設する。センター長は根路銘とする」と書かれていました。長い議論の末にようやく、WHOは日本のことを認めてくれたのです。

言いたいことを言える国に

私がWHOセンター長になった翌年、今度は米政府からワクチンに関するシンポジウムの講演要請が来ました。講師は私、他、米国と英国の有名な先生でした。また、聴講者は製薬会社とその関係者が約100人、さらに米陸海軍の将校が約50人で、政府の職員も参加していました。

席上、米国と英国の先生が米政府が決めたワクチンに賛同する弁を述べた後で、私は統計と数式を使って反論しました。「もし米国が決めたワクチンを使ったら、約4万人の死者が出ます。日本の研究はアジアのデータに基づいているが、米国より1シーズン早く、ウイルスが変

異していることが明らかになっており、米国のワクチンとは変異後のウイルスに効力がない」と。そう言うとき会場がざわつき、座長が慌てて「そんなこと言っていないと思っているのか」と耳打ちしてきました。

しかし、結果はまったく逆でした。主催者が私のところにやって来て、「米国が決定したワクチンの使用を見直し、改めて決定する」と言ったのです。そしてその後、日本が提案したワクチンを使うことになりました。講演を終え、会場を出る際には、アメリカの将校たちが総出で敬礼をして見えました。これは、私が学者になって良かったと思えた最大の出来事の一つです。以来、改めて「言いたいことは言わないといけない」「米国の言いなりになっちゃいけない」という気持ちを新たにすることができました。

日本は戦争に負け、いまだに敗戦国のコンプレックスを抱え、国の政策に影を落としています。でも、そろそろ言いたいことを言ってもいいのではないのでしょうか。

第3分科会レポート

琉球王国の歴史を考える

第3分科会では琉球大学名誉教授で、琉球史を専門とされている高良 倉吉氏に「琉球王国の歴史を考える」というテーマで語っていただきました。

講演者



高良 倉吉 氏

たから・くらよし
琉球大学名誉教授
(文学博士・琉球史)

1947年、沖縄県伊は名島生まれ、南大東島育ち。71年に愛知教育大学を卒業し、73年に沖縄県沖縄史料編集所専門員、沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館館長、琉球大学法文学部教授、沖縄県副知事などを歴任し、現職。琉球史、特に琉球王国の内部構造、対外関係を研究し、首里城復元検討委員会委員、NHK大河ドラマ「琉球の風」監修、NHK時代劇「テンペスト」時代考証などを務める。主な著書に「琉球の時代」(筑摩書房、現ちくま学芸文庫)、『沖縄問題—リアリズムの視点から』(編著、中央公論新社)など。

琉球の多様性とバイタリティー

沖縄の歴史を研究する上で最大のポイントとなるのは、やはり第二次世界大戦です。とりわけ末期のいわゆる沖縄戦では、住民の約25%が犠牲となりました。

また、その際には沖縄の歴史を語ってくれるさまざまな資料も失われました。沖縄には戦前、20以上の国宝・文化財がありましたが、それらが一つ残らず破壊されてしまったのです。建物

も、家々に伝わってきた記録もなくなり、歴史研究が非常に困難になってしまいました。ですから、沖縄の歴史を研究するには、足を使って沖縄以外の地で資料を探し、先人たちがたどった歴史を一つずつ再建していかなければならないのです。

そもそも沖縄の人たちは、古くから海外で活発に行動してきました。そのため、世界中の至るところにその足跡や資料が残されています。そこで、私は中国や米国、欧州などを旅しながら

ら研究を続けてきたのです。長年の研究の末に見えてきたのは、「琉球」という地域の多様性とバイタリティーです。特に14〜16世紀(鎌倉時代後半〜戦国・安土桃山時代)の沖縄には、首里城に王様がいて、「琉球王国」を統治していました。人口7万人程度の小規模王国でしたが、人々は北へ、南へ、西へと、船に乗って活発に移動していました。

なぜこのような活動ができたのかというと、王様を頂点とする強い組織が、海外活動をしかりと取り仕切っていたからです。事実、船には琉球王に仕えるスタッフたちが多数乗っており、当時、タイにいたポルトガル人の証言記録によると、「琉球の人間は自分の国が大好きだった」とあります。

また、この証言を残したポルトガル人はある日、琉球の船の中で不思議な光景を目にしました。甲板の片隅に、病気で亡くなった琉球人3人の死体が塩漬けで保存されていたのです。そして、船長にその理由を問うと、「死んでも国に連れ帰

ってこいと言われている」と答えたそうです。まさに琉球人の「愛国心」の強さがうかがえるエピソードではないでしょうか。

琉球の旺盛な活動を支えたもう一つの理由は、「外部人材を活用した」ことにあります。当時栄えたアジアの代表的な貿易港があったマラッカ、アユタヤなどには中国系住民が多く住み、いわゆるチャイナタウンを形成していました。琉球王国にも同様に中国系の住民がいました。彼らは現地政権に協力的で、琉球王は特に福建省出身の人間を多く活用しました。福建省は中国でも船を造る技術に長けていた地域で、船を操る操船技術も高かったそうです。最先端の技術を持つ人間を受け入れたことで、琉球王国は活動範囲を広げることができたのです。

もちろん、海外からは織物や楽器、蒸留酒などさまざまな珍しいものが入ってきて、それらが琉球王国の文化を多様にしていきました。一方で、東南アジアの商人などを通じて相当接触していたはずのイスラム教は取り入れませんでした。酒好きの

琉球人が拒んだのかは定かではありませんが、琉球では既に文化の取捨選択が行われていたことが分かります。

琉球の遺産を継承するために

琉球王の居城であり、海外事業の拠点だった首里城の復元プロジェクトに携わることができたのは、歴史研究者として大きな喜びです。沖縄戦で失われた多くの人の命はかえってこないけれど、文化は復元によって取り戻すことができるからです。

私たちの仕事は、世界方々に散らばった歴史の断片をつなぎ合わせるだけでなく、「かつての琉球人が持っていたエネルギーを現代に継承させること」だと思っています。その象徴となるのが、この首里城の復元です。調査に使った資料やデータをデジタルアーカイブ化して見られるようにする作業も進めています。

長かったプロジェクトも2019年2月によりやく完了します。今ほどの泡盛で祝杯をあげるか考えているところです。

懇親ゴルフ大会

参加者 93 名

11月9日、南城市にある「琉球ゴルフ倶楽部」にて、総勢93名が参加し、懇親ゴルフ大会が開催されました。

同倶楽部は「沖縄」の自然の息吹を感じながらコースを巡り、プレーできます。アメリカンタイプで緊張感と開放感のバランスがとれたトーナメントコースで、広大な敷地に西・東・南に分けられた27ホールは、変化と起伏にあふれた美しいコースレイアウトとなっています。今回の懇親ゴルフ大会は、3コース3カ所同時スタートで実施されました。

大会の結果は表の通りになりました。表彰式は、山城太尚大会実行委員の司会、山城文雄大会実行委員挨拶でスタート。沖縄会の波平 正会長、友利 博明大会実行委員長、そしてMJSの大久保利治取締役（ミロク賞のみ）がプレゼンターとなり賞品授与が行われました。単位会、個人優勝者からスピーチをいただきたい、最後に次回の全国統一研修会の開催担

【個人成績】

順位	氏名	グロス	HDCP	ネット
1位	森内 昭男(四国会)	90	19.2	70.8
2位	竹内 靖(四国会)	85	12.0	73.0
3位	岡村 雅裕(中部会)	83	9.6	73.4
4位	三浦 利勝(中部会)	88	14.4	73.6
5位	當山 孝祥(沖縄会)	88	14.4	73.6
6位	橋本 敬司(近畿会)	93	19.2	73.8
7位	岸上 善宜(四国会)	99	25.2	73.8
8位	乾 伸行(四国会)	86	12.0	74.0
9位	中畝 將博(中国会)	85	10.8	74.2
10位	矢ヶ崎 清(関東信越会)	87	12.0	75.0

【単位会対抗戦】

順位	単位会	ネット計	順位	単位会	ネット計
1位	四国会	217.6	5位	中国会	226.2
2位	中部会	222.0	6位	関東信越会	230.0
3位	沖縄会	224.6	7位	九州会	231.8
4位	近畿会	226.0	8位	東北会	241.0



1.開放感あふれるコースレイアウト 2.単位会優勝を果たした四国会を代表し、正司 哲浩先生がご挨拶 3.個人優勝を果たした森内 昭男先生(左)とプレゼンターの友利 博明先生 4.表彰式の様子

記念旅行

参加者… 3日間コース75名 / 日帰りコース38名

● 3日間コース
こちらのコースの初日は、沖縄本島北部がメイン。県民に愛されるオリオンビールのハッピーパーク、美しい天然の古宇利ビーチ、世界遺産に登録された今帰仁城、世界最大級の水槽を有する美ら海水族館など、盛りだくさんの内容のツアーとなりました。

2日目は那覇空港より一路宮古島へ。昭和23年の創業以来、伝統の手法にこだわりの泡盛の古酒をつくる多良川酒造を訪れ、島の南東端に位置する風光明媚な東平安名崎にて絶景を満喫いただきました。

最終日は、宮古島と伊良部島をつなぐ全長3540mの伊良部大橋、国の天然記念物に指定されている通り池、豊かな海洋資源とふれあうことができ、宮古島海中公園などを巡り、全ての行程を終えました。

● 日帰りコース

こちらのプランでは、最初に世界遺産に登録された中城城跡、絶好のドライブコースの海中道路、製塩工場見学ができる、ぬちまーす観光製塩ファクトリー、パワースポットの果報バンタなどを訪れ、散会となりました。



1.オリオンハッピーパークで試飲の乾杯! 2.美ら海水族館の美しい水槽 3.伝統を重んじる多良川酒造 4.東平安名崎から望む絶景 5.神秘に満ちた空間の宮古島海中公園 6.宮古島の道中、美しい海が参加者を魅了 7.琉球王朝時代の記憶を今に伝える中城城跡 8.ぬちまーす観光製塩ファクトリーでは製塩の工程をレクチャー

日立の SMART PROJECTOR & TOUCH SCREEN

HITACHI
Inspire the Next

会議をスマートに。仕事をスマートに。



サッと置いて、すぐ使える。
この使いやすさがミーティングをスマートアップ。

SP-1J | WXGA相当
約1.2kg グリーン購入法
適合
JANコード: 4902530055719 希望小売価格: オープン価格

超短投写 LEDプロジェクター

高発色3色LED高原を採用。
明るい場所でも鮮明投写が可能です。
机の上にも36型の大画面で投写が可能。

軽量・コンパクト

薄型軽量約1.2kg。
A4サイズより小さいのでビジネスバッグ
に入れて持ち運びも楽々。

簡単ワイヤレス接続

Miracast™機能でスマート端末と接続
可能。さらに専用アプリ「Link+」(無料)
を使って映像転送も可能です。

持ち運べる34型画面。
机の上にサッと開いて、すぐに使える。

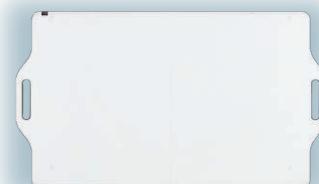
折りたたんで持ち運び可能

34型画面を薄さ16mm、質量約2.1kgで
手軽に持ち運びできる。映像を囲んでディス
カッションする環境を手軽に実現。

指でパソコン操作が可能

投写画面上で専用ペンを使わずに指で
パソコン操作が可能。マルチタッチに対応
しているので画面の回転や拡大・縮小など
の直感的な操作ができる。

*位置調整ソフトウェアのダウンロードが必要です。ダウンロード
は下記URLをご参照ください。
<http://www.hitachi.co.jp/Prod/vims/proj/touch-screen/download.html>



SP-1J用タッチスクリーン
TS-01J | 約2.1kg

JANコード: 4549873059761 希望小売価格: オープン価格

*画面はハメ込み合成であり、イメージです。*オープン価格の商品は希望小売価格を定めていません。*詳しくはカタログをご覧ください。